

川島運平先生之像

かすみがうら市深谷 3656-1

かすみがうら市の南東部、かすみがうら市立霞ヶ浦南小学校前の道を挟んで向かい側、川島医院の敷地内に一基の胸像があります。像の主は、昭和2年（1927）に「昭和文農学校」を創立した川島運平。

川島運平は、明治21年（1888）に現在のかすみがうら市深谷に生まれ、現在のかすみがうら市牛渡にあった奨武館^{しょうぶくわん}に入門して剣道を学び、県立土浦中学校（現在の土浦一高）の選手として活躍しました。卒業後は志願兵として軍隊生活を送り、大正9年（1920）からは母校での教練を担当するようになりました。

剣道の習練や軍隊での生活をもとに「旧制中学校に進学できない農村の長男に質実剛健の気風を養成し、時代に遅れないような勉学をさせよう」と決心、自ら私財を投じて、「昭和文農学校」を創立しました。

昭和文農学校は、小学校修了の男子を対象とし、2年課程で1学年は20～40人であったといえます。学科内容は旧制中学校の教科に準じた普通学科を教授し、特に農業と剣道に特色があったようです。運平は自ら校長となり、英語や教練を担当しました。



施設としても普通教室2棟、講堂兼剣道場、兵器庫などを整備し、地方において非常に特色のある学校であったといえるでしょう。さらに運平は、昭和14年（1939）に農村の青少年を育成するという目的で、自宅敷地内に「運武館」という剣道場も開きました。太平洋戦争直前の昭和16年（1941）3月、時局に対処する私学整理の政府の方針に従い、運平は昭和文農学校を廃校にします。329名の卒業生を出したこともあり、多くの人々に惜しまれたといえます。

廃校から25年後の昭和41年（1966）に卒業生一同により、昭和文農学校跡地に運平の胸像が建設されました。なお、運平は昭和50年（1975）に死去しますが、剣道場である運武館の活動は現在でも受け継がれています。

茨城教育 第八五八号

平成三十年十月二十日発行

編集責任者 高堀 正伸

発行人 高堀 正伸

発行所 一般社団法人 茨城県教育会

水戸市見和 一三五六一二

電話 〇二九一三二一七四七

印刷所 有限会社山田軽印刷所